

板橋区社会福祉法人施設等連絡会向け 『新型コロナウイルスにおけるボランティア受入れ』 アンケート調査 集計結果

令和2年8月27日（金）
いたばし総合ボランティアセンター

1 調査内容

(1) 目的

新型コロナウイルスの影響による区内施設でのボランティアの受入れ状況や受け入れる際の課題などを把握し、施設ボランティアのコロナ禍における工夫や配慮、取組みなどを集約し各施設や関係機関で共有することを目的とする。

(2) 期日

令和2年7月1日～7月27日まで

(3) 対象

板橋区社会福祉法人施設等連絡会 99施設

(4) 回収率 38.4% (38施設) [高齢13/障がい16/児童7/その他2]

(5) 項目

- ・7月1日時点、施設でのボランティア受入れ状況
- ・夏休み期間中のボランティア体験の受入れについて
- ・感染対策を行いながらできる利用者とボランティアとの交流について
- ・新型コロナウイルスの影響による今後の見通し、ボランティアの受入れの課題

2 調査結果の主な内容

(1) ボランティアの受入れ状況

- ・8割の施設がボランティアの受入れを中止していることがわかった。

(2) 夏休み期間のボランティアの受入れ

- ・9割の施設が夏休みのボランティア体験の受入れはできないという回答であった。

(3) 感染対策を行いながらできる利用者とボランティアとの交流について

- ・電話傾聴、手紙、オンラインでの交流を考えている施設は一部のみ。
- ・施設内の感染防止対策が最重要課題であり、9割の施設は特にはないとの回答であった。

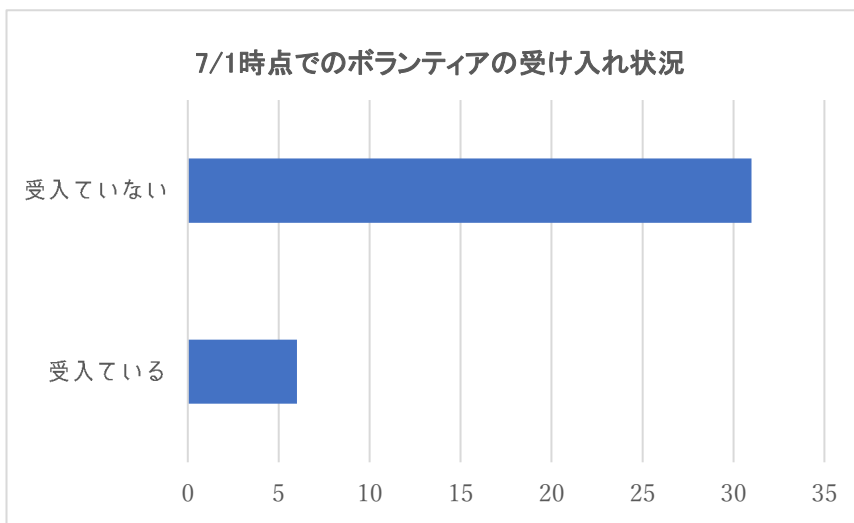
(4) 新型コロナウイルスの影響による今後の見通し、ボランティアの受入れの課題

- ・特に高齢者施設では施設によって多少の差はあるが、ボランティアがいないことによる利用者の心身のバランスに与える影響などを懸念する回答があった。
- ・今までボランティアをお願いしていたことを職員が担うことになり、職員の負担が増えたという回答があった。
- ・児童施設では地域との交流、触れ合いが制限されていることによって、子どもの「心の育ち」への影響が懸念されるなどの回答があった。

3 調査結果 概要

【質問1】 7月1日時点、貴施設ではボランティアの受け入れを行っていますか？

7月1日時点のボランティアの受け入れ状況を伺ったところ16%（6施設）が受け入れており、残り84%（32施設）の施設が受け入れを中止していた。ボランティアの内容を制限して活動を継続している施設もあり、受け入れている施設の内訳は高齢者施設3、児童施設1、障がい者施設2となっている。中には緊急事態宣言解除後に受け入れを再開した施設もあった。



受け入れている 6
受け入っていない 32

★新型コロナウイルスの感染が広がる中、ほとんどの施設で受け入れを行っていない。

<受け入れ時期>

- 6月1日～6月30日は受け入れを停止
- 6月1日から
- 7月1日から
- 7月中旬から
- 常時受け入れている。

<ボランティアの内容>

- 遊びボラ、学習ボラ
- 「移動パン屋」の対面販売は中止だが予約注文のみ行っている。
- 洗濯物の仕分け、車椅子清掃等ご利用者と直接接する場面がない内容に限定。
- 日中活動補助のボランティア活動受け入れを開始している。
- 業務ボランティアのみ復帰
- 活動補助、配膳、利用者との交流等
- 利用者の方と一緒に縫製や内職作業、販売等。新規受け入れはしておらず、これまでも参加してくださっている地域の方が、6月以降から週1回活動を再開。

＜受け入れてない理由＞

- ほとんどの施設が、新型コロナウイルス感染防止のためと回答。
- 以前と比べて作業量が減っておりボランティアの力を必要としない。
- ボランティアの申込みがなかった。
- 感染リスクや諸般の情勢を勘案し、総合的に判断。

【質問2】夏休み期間中（8月～9月末）、小学生から大学生などのボランティア体験希望者を受け入れることはできますか？

児童や学生、社会人などを対象に夏休み期間を利用して、毎年区内施設にご協力を依頼している「夏季ボランティア体験」。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から受入れが難しいと回答した施設は9割にのぼった。高齢者施設1、障がい者施設2のみ受入れ可能と回答。

- 受け入れられる 3 ●受け入れられない 28 ●その他 6 ●無回答 1

＜「その他」の自由意見＞

- 感染症の状況などを鑑みて、その都度検討していく。
- コロナの状況次第。現時点で、ご家族の面会も制限している。
- 新型コロナウイルス感染予防のため、当面の間行っていない。
- 新型コロナウイルスもあるが、生活の場であるため体験者は受け入れていない。
- 状況が変化している中、確実にできるとは言えない。
- 状況を見ながらの判断となるが、現状としては難しい。
- 当事業所は入居施設なので、その時の利用者の状況を考慮し、利用者と相談しながらその都度判断していきます。

【質問3】受入れ内容を具体的に教えてください。※「できる」と答えた施設のみ

＜対象＞

- | | | | |
|----------|----|-----------|----|
| ●社会人 | 2人 | ●大学・専門学校生 | 3人 |
| ●高校生 | 2人 | ●中学生 | 2人 |
| ●小学5～6年生 | 1人 | ●小学3～4年生 | 1人 |
| ●小学1～2年生 | 1人 | | |

＜ボランティア体験の内容＞

- 体制があれば、視覚障がい留学生の買い物補助など
- 受け入れる子どもの学年により違いはある。保育士の補助。プール、自由遊び等は、園児と一緒に楽しむ。食事の介助・午睡の補助・絵本の読み聞かせ・簡単な清掃・とにかく楽しく一緒に遊んでください。
- 活動補助、配膳、高齢者との会話など。
- 利用者の方と一緒に縫製や内職作業、販売等。

<募集人数>

- 1～2名
- 1日3名
- 1日2名程度

<参加者の事前訪問や事前打合せ>

- 必要 2
- 不要 0

<参加について注意が必要なこと>

- 0157、赤痢、サルモネラの検査。
- 感染予防対策として、来所前の検温や手洗い、手指の消毒、マスクの着用等。
- 毎朝の検温、マスク着用。

【質問4】 ボランティアが施設に入館しない形で行う「利用者とボランティアの交流ツール」として導入を検討しているものや、実施したいものはありますか？

今後導入したい・検討している「ボランティア受入れの工夫や取組み」を複数回答方式で質問。オンラインでのレクリエーションや手紙を使った文通方式のコミュニケーションを検討している施設があわせて9施設あった。「特になし」が多いが、環境整備や人員体制が課題なのではないかと予測される。その他の意見として、利用者と直接関わらない車椅子の整備や清掃、施設外周の手入れなどの活動をあげる施設もあった。

- 電話傾聴 1
- 手紙 2
- オンライン傾聴 1
- オンラインレク 5
- 特になし 3
- その他 4

<「その他」の自由意見>

- 現状では特になし。今後コロナ禍が続くようであれば検討したい。
- 体制ができれば、視覚障がい者留学生の買い物補助。
- ①清拭縫い：施設の外で準備した材料を使用し自宅で作業していただく。
 - ②車いす清掃、施設の外で活動
 - ③施設外周の草むしり等の外観作業
 - ④朗読や楽器演奏をオンラインで又は、録音・録画して聞かせていただく。

【質問5】 貴施設にて、ボランティアを受け入れるために、実際に行っている工夫や取組みがありましたらお答えください。

自由記述式。ボランティア受入れのための工夫や取組みを質問。連絡先の把握や検温などの健康チェック・アルコール消毒等の対策を講じるとともに、「3密」を回避した環境を整備することが重要との回答が多数あった。

<新型コロナウイルス関連>

- 保育の仕事が楽しくなるようにしている。体調管理（コロナ対策）朝食を必ず摂る。体温を測る。咳、下痢、熱の確認。マスク着用。家族の体調確認園内においてもマスク着用。登園時、熱を測る手指消毒・うがいは頻繁に。
- 2日前からの検温。当日健康確認シートでの健康管理確認。
- コロナウィルス感染予防対策の強化（検温・消毒・マスク着用等）名札作成し利用者（職員）に分かるようにしている。募集時、ボランティア内容を分かりやすく記入する。募集時、ボランティア内容を分かりやすく記入する。ボランティアに来ていただいた場合、する事がないという状況にならないように支援員と連携をとっている。
- 体温測定・マスク着用。
- ボランティアから申し出をいただき、清拭縫いを実施している。
- ボランティアを受け入れられるようになった場合は、連絡先の把握や検温・アルコール消毒等の既に当園にて来園者向けに行っている対策を講じるとともに、「3密」を回避した環境の下、ボランティア活動が行えるよう整備する。
- 現在のところ受入れの見込みがたらず、工夫ができない状態です。
- 今はどうやって登録利用者の希望に沿った受け入れができるかで精一杯です。

<平常時>

- 1日ボランティアに入る方には給食を無料提供しています。
- 板橋区ホームページ「シニア世代福祉施設ボランティアの募集」への掲載、既存の登録ボランティアの方々からの紹介（※コロナウィルス影響前）
- コロナが終息するまでは、受け入れることはできませんが、通常になれば、有償ボランティアを設け交通費を支給し、ボランティア感謝際などを開き、ボランティアの方と、深く交流を持ち、長く活動を続けていただけるように心がけています。
- コロナの前は夏休みに学生のボランティアを受けたが、今は取り組み事態検討中。
- 地域団体（町会、障がい者団体、支援団体）と常に関係を作り、相互にイベント交流に参加している。ボランティア登録していただき、ボランティアの希望や意向に対応してる。
- 必要な場合、法人本部に相談。
- ポスター告知、紹介
- ボランティアチームを組織し、活動のコーディネート、活動のしやすい環境づくり、懇親会などを実施しています。
- ボランティアに対するオリエンテーションと振り返りの実施。
- 交流会などに参加していただき、一緒に楽しんでもらうことにより、活動の理解に結びつける。
- 事前に必ずオリエンテーションを行い、ボランティアさんが何をやりたいか、当施設で提供できる内容について確認している。日程についてもできるだけボランティアさんの都合に合わせている。
- 地域広報誌等でのアピールや職員、ご家族からのご紹介、地域活動からのご紹介など。
- 入所者（利用者）様には施設の中から季節を感じてもらいたいので、屋外での活動、例えば園芸等お願いしたい。
- 募集に関しては、ホームページや園の外に掲示、近隣の町会の掲示板に依頼する等、告知を行っている。

【質問6】 ボランティアを受け入れられない・受け入れられなかったことで生じた「課題」や「問題」がありましたら具体的な内容を教えてください。

自由記述式。ボランティアがいない現状での課題を挙げてもらったところ、課題や問題は今のところないという施設がある一方、特に高齢者施設で利用者のストレスや刺激の減少から多少なりとも変化が生じているなどの影響が出ている様子がわかった。また、ボランティア自身高齢者が多く活動がなくても連絡を入れるなどボランティアを気遣う施設もあった。

- 利用者和社会の断絶・利用者の心の癒し、刺激の減少。
- ①クラブ活動を休止しており利用者の楽しみが減った。
 - ②洗濯たたみやベッドメイクなどの活動がなくなり職員の負担が増えている。
 - ③喫茶活動がなくなり利用者職員以外の方との交流がなくなった。
 - ④車いす清掃が十分にできなくなった。
 - ⑤これを機に高齢のボランティアから活動を止めたいとの連絡があり、社会活動の場が減ることを心配している。
- 活動の制限があり、入居者様の生活の質の低下や、体力、気力の低下を感じています。
- 継続的なボラの場合、入居者様から「〇〇さんまだ来ないの？」など聞かれたりした。
- すべて自分たちでやってしまうことの繰り返し。
- 話相手がいることで利用者さんの安心感につながる。人との出会いに喜びを感じてくれる。
- ボランティアさんによるレクリエーションやクラブ活動等の中止により、ご利用者がそれまでの違った環境やご家族との面会も叶わない中でのストレスを感じておられるご様子。
- ボランティアを通じた地域交流の不在。
- ボランティアが見えない事への寂しさ。
- 毎回、数回行われていたサークル活動や、傾聴ボランティア、囲碁ボランティア等来所の中止により利用者自身の活動量の低下、認知能力、QOL低下が課題である。
- 活動のメリハリとして、活動ボラやお手伝いボラ等を受け入れていたが、受け入れを中止しているので、刺激が少なく感じる。
- 現状、ボランティアがいない為、わかりませんが、日頃のボランティアがいるとしたら、やはり担う内容、量により職員の負担は変わると思います。
- 子どもたちが地域との交流、触れ合いを制限されていることによって、心の育ちへの影響が懸念される。
- 登園自粛で利用者も少なかったため、問題はなかった。7月中旬より通常登園になっているが、今現在も問題は感じない。ただ、職員以外の外部の方がいらっしゃることで、会話が增えたり、刺激になったりしていることもあるので、その点は影響があるかもしれない。ボランティアの方々より、「早くボランティア行きたい。小茂根に行けず寂しい」という嬉しい声を頂いている。
- 当施設では高齢ボランティアの方が多く登録されていて今般のコロナ禍により閉じこもりを余儀なくされていることで心身のバランスを保っておられるか心配しています。節目ごとにご機嫌伺いの電話をさせて頂いています。
- 利用者ボランティアのふれあい、つながりがなくなった。

【質問7】 その他、ご意見・ご要望がございましたら自由にお書きください。

その他については、施設としてコロナ禍でボランティアを受け入れる難しさやボランティアをいつ受け入れられるかなどの悩みや不安のほか、他施設の工夫やアイデアが欲しいなど様々な回答が見られました。

- いつもお世話になっております。ボランティアの方々にも支えて頂きながら活動しており、心より感謝申し上げます。引き続きよろしくお願い致します。
- 現在は三密を避けて利用者を受け入れることで環境的にも精一杯でボランティアさんの受け入れが出来ずしております。B型事業所の生産活動の売上げが激減しておりますので、商品購入での活動支援など嬉しいです。
- 高齢や体調不良を理由にボランティアを引退される方が増えて、職員の負担が増えた。
- こちらの事務局の体制がないために、受け入れる調整ができない。結果的に、すべて独力でこなしていくという悪循環である。こちらの体制を忠実するなかで、ボランティアの力を活用できるようにしたい。
- 今後施設でのボランティア活動の在り方について検討が必要であると考えている。
- 新型コロナウイルス対応で現在どうしていくか模索中です。他施設の取組みで良いことをしているところがあれば情報欲しいです。宜しくお願いします。
- 問6とも関連するが、過去に施設が望まない範囲の行動をボランティアが独自に行い、その対応に苦慮したことがあった。
- 早く、ボランティアさんの受け入れを再開したいと思っています。コロナの影響はとて大きく、高齢者施設という中で、リスクを考えると、容易に再開できない実情があります。心の底から、ボランティアさんの力をお借りして、入居者様の生活を豊かなものにしたいと思いがすが・・・。最近の第二波の報道を聞くと、いつになるかわかりません。
- ボランティアさんとの関わりについては、コロナウイルス感染症が収束しないと難しいと思います。しかし、今後もこの状況が続いていくなかで、どのような関わり方が必要なのか今までの視点を変えて考えていく必要があると思います。
- ボランティアの受け入れに関して、見通しが立たないため、ボランティアの受け入れている施設等の情報を知りたい。
- 本来はボランティアさんに来ていただいて人間関係の広がり等の力を貸していただくべきでしょうが、新型コロナウイルスの感染予防、拡大防止の観点から現状としては難しいという印象を持っています。
- 現時点では不要な心配を職員にさせないようにしたいので協力できず申し訳ございません。
- 子どもたちが公園で遊ぶことは、子どもの育ちにとって必要不可欠であることを、地域の方々に理解されるようになればと思う
- 子どもの姿や心の動きに触れる体験を通して人間の成長や保育園の役割について知るきっかけになったら嬉しい。また、将来の目標の選択肢が広がることに繋がったら良い。

- 個人情報管理に対する利用者側の不安感です。当事業所の利用者は全員が板橋区内、地元なので、近所の知り合いに会ってしまったらどうしようと、不安になられる方もおりますので、利用者の状況によっておもボランティアの受入の有無は決まります。
- 課題として、ボランティアを受け入れる際の対応に、時間を割くことがなかなか難しいことがあります。また、ボランティア自身の質の問題やボランティアへの報酬の問題など。施設としてもボランティアをどう位置付けるか来てもらえるか等、大事なことだと考えておりますが、ボランティア受け入れに関しては運営において難しい問題の一つだと思っています。
- 当施設では比較的高齢者のボランティアがほとんどである。その方の社会生活を制限してしまっていることに、残念な思いがある。ただ、まだ新型コロナウイルスの影響が心配である。作業量が以前のような状況に戻った時、判断したいと考えている。
- 平時のとおり行事が行えるようになった際には、ぜひともご協力をお願いしたいと思います。

以上